

平成 23 年度

事業所番号

013001

## 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 事業所の概要

## (1) 事業所種別

事業所種別	平成20年度以降の3か年度（年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度）連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500k1以上の事業所（他の事業所の一部（区分所有部分、テナント部分等）である事業所は除く）
C	

## (2) 事業所及び事業内容

事業所名	東洋インキ株式会社 埼玉製造所		
所在地	埼玉県川越市大字栄1番地		
直近3年のエネルギー 原油換算使用量(kℓ)	20年度	21年度	22年度
	9,817	9,176	9,608
産業分類名（中分類）	化学工業		
分類番号（中分類）	16		
事業活動の概要  (事業内容、従業員数、 敷地面積、延べ床面積等)	主な製品：オフセットインキ、グラビアインキ 従業員：476人 延床面積：70,000m3		

## (3) 地球温暖化対策推進者（事業所に推進者がいる場合）

所属部署	電話番号
埼玉製造所	049-233-2211

## 2 事業所の地球温暖化対策推進における基本方針（事業所で定めている場合）

《「埼玉製造所環境方針」より、地球温暖化対策関連の項目の抜粋》  
 当製造所はグラビアインキ、新聞インキ、オフセットインキの開発、あるいは生産活動において東洋インキの経営理念と環境憲章に基づいて環境保全を推進させるため、以下の環境活動を全員参加で取り組む。

- (1) 当製造所の事業活動において環境影響項目を的確に捉え技術的、経済的に可能な範囲で環境改善の目的を目標を定め、ISO14001規格に準拠した環境管理システムの維持充実を目指し、環境汚染の改善、防止に努める。
- (2) 環境に関わる法規制、協定等を順守し、更に自主管理基準を設定し、環境保全に努める。
- (3) 当製造所の事業活動の全ての領域で、省エネルギー、省資源、廃棄物の減量化に取り組む。
- (4) 大気汚染物質、廃水等の環境負荷を与える物質の排出量を削減すると共に、可能な限り代替物質への転換を行う。
- (5) 掲げた目的、目標に対する成果を定期的に確認及び見直しをすると共に、地域社会との共生を目指し、常にコミュニケーションを図って環境管理システムの維持、向上に努める。
- (6) この環境方針を製造所で働く人または製造所のために働く人への周知、徹底を図るために、環境に関わる教育や製造所内の広報活動を行う。

3 事業所の地球温暖化対策における推進体制（事業所で定めている場合）



4 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 削減目標

削減計画期間	23	年度	～	26	年度
削減目標	<p>エネルギー起源CO<sub>2</sub> (必須)</p> <p>基準排出量に対して、削減計画期間の平均で、約13%を削減する。</p>				
削減目標	<p>その他のガス</p> <p>【非該当】</p>				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の目標概要	基準排出量	19,095	t-CO <sub>2</sub> /年		
	排出可能上限量 (計画期間合計)	71,800	t-CO <sub>2</sub>	目標削減率	6%

5 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

				計画期間前		計画期間			
				21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
エネルギー起源CO <sub>2</sub>		目標		15,335	16,093	16,576	16,908	16,570	
		実績	15,033	15,777					
その他ガス	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>	目標							
		実績							
	メタン	目標							
		実績							
	一酸化二窒素	目標							
		実績							
	ハイドロフルオロカーボン	目標							
		実績							
	パーフルオロカーボン	目標							
		実績							
	六フッ化硫黄	目標							
		実績							
温室効果ガスの合計		目標		15,335	16,093	16,576	16,908	16,570	
		実績	15,033	15,777					

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO<sub>2</sub>)

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

				計画期間前		計画期間			
				21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位		目標		0.2514	0.2659	0.2767	0.2851	0.2822	
		実績	0.2507	0.2510					
活動規模の指標	<input checked="" type="radio"/> 生産量	単位 t	59962	62844	60518	59913	59314	58721	
	<input type="radio"/> 出荷額	単位							
	<input type="radio"/> 従業員数	単位							
	<input type="radio"/> 床面積	単位							
	<input type="radio"/> ( )	単位							

## 別紙2号 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

東洋インキ株式会社 埼玉製造所

No	対策の区分		対策名称	実施時期	備考	
	区分番号	区分名称				
		大区分				中区分
1	320200	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	S 3棟ボイラー設定圧力低減 (0.7MPaから0.55MPaに設定変更)	平成21年2月～	
2	320200	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	V 2棟ボイラー設定圧力低減 (0.7MPaから0.55MPaに設定変更)	平成21年1月～	
3	370700	電動応用設備、電気加熱設備等	37_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	S/R棟内エアールール削減によるコンプレッサーの省エネ	平成21年1月～	
4	360700	ポンプ、ファン、ブロワー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	セントラルバキューマー (集中型真空掃除システム) の未使用時停止	平成21年1月～	
5	330200	空調設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	Q2棟No.1チラー更新 (COP=4.3からCOP=4.7へ向上)	平成22年9月～	
6	330200	空調設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	R棟空調機更新 (COP=2.2からCOP=3.3へ向上)	平成22年7月～	
7	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	新規屋外にLED照明の導入	平成23年4月～	
8	320200	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	Q2棟CCWチラー (1台) の冬季停止 (12月～2月)	平成22年12月～	
9	360700	ポンプ、ファン、ブロワー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	V棟冷却水ポンプの運転方式変更 (連続からON/OFFに変更)	平成22年12月～	
10	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	既設水銀灯のLED照明への更新	平成24年1月～	
11	330200	空調設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	M棟チラーの更新 (高効率化)	平成23年5月～	
12						
13						
14						
15						



別紙4号 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

事業所C

(※希望者のみ記載)

東洋インキ株式会社 埼玉製造所

自由記述欄

1. ISO14001の取得  
 東洋インキ株式会社埼玉製造所では、平成13年5月のISO14001を取得し、地球温暖化対策や廃棄物の削減に取り組んでいます。

2. 東洋インキグループでは、グループ全体で「CO2削減削減プロジェクト」を立ち上げ、製造段階でのエネルギー使用量削減に取り組んでいます。

3. 東洋インキグループの社会・環境活動報告書  
<http://schd.toyoinkgroup.com/ja/csr/index.html>

県が定める係数以外の電気の排出係数を用いた場合のエネルギー起源CO2排出量 (22年度)

排出係数 (t-CO2/千kWh)	係数の根拠	エネルギー起源CO2 排出量(t-CO2)
		5,145